

名 称	志摩たちごクラブ活動支援センター
所 在 地	〒517-0703 三重県志摩市志摩町和具535番地 志摩文化会館内
連 絡 先	TEL : 0599-85-2222 FAX : 0599-85-7800

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 志摩市志摩町 13, 884人（平成19年1月末現在）

志摩町は、平成16年10月1日に志摩郡5町（志摩、浜島、大王、阿児、磯部）が合併し誕生した志摩市の志摩半島先端部に位置する町である。北は英虞湾、南は太平洋に面し、海に囲まれた土地柄、漁業を営む方が多く、英虞湾では波の穏やかなリアス式海岸を利用した真珠養殖業が、太平洋側ではアワビや伊勢エビ漁が盛んである。

町内の児童生徒数は小学校5校713人、中学校3校409人（平成18年8月現在）であるが、過疎化や少子化により児童生徒数は年々減少している。

このような背景のもと町内の子どもたちを対象に、「様々な体験活動を通して自ら学び考える力や豊かな人間性を育み、健やかな成長を促す」という目的を持って「子どもの居場所づくり事業」に取り組んでいる。また、青少年育成関係団体や機関が中心となって、それぞれが連携協力を図りながら「地域の子どもたちは地域で育てる」をテーマに“文化体験活動”“ボランティア活動”“スポーツ活動”を3本の柱として事業を展開している。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「大漁だ！地引網漁体験」

志摩市青少年育成市民会議志摩支部と高校生ボランティアグループ、地元の漁師の方たちが連携し、海が近くにありながら子どもたちの「海離れ」がある中、地元の海や自然に親しみ、その素晴らしさを再確認することを目的に、町内の小学生と保護者を対象に、地引網漁体験とレクリエーション、海岸清掃ボランティア活動を御座の白浜海岸で実施した。

内容については、まず会場である白浜海岸を参加者全員で清掃活動を行った。白浜海岸は、県内でも有数の海水浴場であり夏場には数多くの観光客や海水浴客で賑わう場所である。それに伴いゴミも大量に発生するが、地元の方やボランティアグループなどの活動によって、きれいな海や砂浜が保たれている。この事業を実施した10月は海水浴シーズンも終わり観光客などはいなかったが、海岸や浜辺には漂流物や多少のゴミがあり、清掃活動を実施することにより自然環境の保護やボランティアに対する意識の高揚を図ることができた。

その後、地元の高校生ボランティアグループ「ワンアース」主導によるレクリエーション活動を行い、砂浜を利用した“棒かくし”と“宝さがし”の二つのゲームを実施した。“棒かくし”は、砂浜に立てた棒に砂をかけて隠していくといった単純なゲームだったが、少しでも多く隠そうとみんな夢中になって砂をかけていた。“宝さがし”では賞品がもらえることもあり必死になって砂をかきわけ服も汚しながら隠された番号札を探しあて、高校生からお目当ての賞品を手渡されると笑顔いっぱい喜んでいて。次に高校生の発案により、地引網漁体験を行う際に子どもたちが危険な魚や毒を持つ貝などでケガをしてはいけないと、自らが講師となり手作りした資料を使って子どもたちにレクチャーを行った。子どもたちからは「同世代の先生」として非常に好評であった。

最後に本事業のメインである地引網漁体験を行った。普段あまり経験することのできない地引網漁を親子が一緒になって体験し、漁業に対する認識と自分たちの住んでいる地元の海や自然に親しみ、地場産業についての理解を深めてもらった。

漁師が仕掛けた網につながるロープが砂浜にあがると、何人かの子どもは誰よりも早く前で引っ張りたいたい一心で靴や服が濡れるのもかまわず海の中に入ってロープを握りしめていた。号令を合図に参加した親子ら総勢100人あまりで一斉に引っ張り始めたが、最初のうちは子どもたちも要領がわからず慣れない様子で引っ張っていたが、だんだん網が近づいてくると「よいしょ。よいしょ。」とかけ声も出始め息もびったりとなっていた。10分ほどで全部の網を引き上げることができ、みんなで協力し網を引き上げた充実感と網にかかる大漁の魚介類に目を輝かせていた。さっそくピチピチとはねる魚を追いかけながら必死になって手づかみしていたが、夢中になってすべて転ぶ子どもや、激しく動きまわる魚にびっくりして逃げ出す子どももいて微笑ましい場面だった。

今回の事業の中で高校生ボランティアグループに事業全体を通してリーダーとして活躍してもらい、また、地元の漁師の方たちや主催者役員とも何度も協議を重ね、ゼロから作り上げた事業として、参加した親子はもとより関係者スタッフ一同印象に残る事業となった。子どもたちにとっても自分たちの住んでいる町の雄大な海と自然を肌で感じてもらい、異年齢交流や環境学習、ボランティア活動などを交えた大変有意義な活動となった。

コーディネートの実際

今回実施した「大漁だ！地引網漁体験」は、志摩市青少年育成市民会議志摩支部が主催する年間行事の中の一だ行事として新しく企画した事業だった。

前年度までは、町内の親子を対象に一日のデイキャンプを実施していたが、市町村合併に伴う町民会議の組織の再編等により準備期間不足で開催できない状態だった。また、自分たちの住んでいる目の前に自然豊かできれいな海があるのに、「海で遊ばない」「海に関心がない」といった子どもたちの深刻な「海離れ」も問題となっていた。

そこで、主催団体役員から活動支援センターに相談があり、まずは役員同士で話し合いを持ってもらい、自分たちの思いや考えを出してもらった。

- ・小さな子どもでも参加でき、地元の海や自然に興味を持ってもらえるような事業

- ・子どもたちに自分たちの住んでいる町の良さを知ってほしい
- ・保護者もいっしょになって活動できる事業
- ・豊かな自然を生かした体験学習
- ・ただ単に楽しむだけではなく、何か一つでも印象に残るような事業

などの意見が出されたが、ポイントを絞っていった結果、次のように意見をまとめることができた。

- ・町の特色であるきれいな海や砂浜をフィールドとして自然体験活動を実施する
- ・地元の漁師の方たちに手伝っていただく（地引網漁体験）
- ・地元で活躍している高校生ボランティアグループに協力してもらう
- ・環境に配慮した事業にする
- ・ボランティア活動も組み入れる

結果的に良かったことは、役員のみなさんに子どもたちへの思いや自分たちの町について振り返ってもらったことで、「今の子どもたちに何が足りないのか。」「自分たちの役割とは。」などの課題が洗い出せ、その課題について話し合うことにより最終的に本事業へとたどり着いた。

主催団体と高校生ボランティアグループをコーディネートしたことも事業の成功につながった。後日開催した打合せ会議へ高校生ボランティア4人にも出席してもらい、大人側からは、「子どもたちのリーダーとなってほしい。」「子どもたちに対して何かレクリエーションを実施してほしい。」高校生側からは、「準備を手伝ってほしい。」「ある程度自由にやらせてほしい。」などお互いに意見を出し合うことで事業実施に向けての準備がスムーズに行えた。

また、環境にも配慮していくという意見から、事業を実施する前に現場の海岸と砂浜清掃活動を組み入れ、子どもたちのボランティア精神の向上と環境教育の一助とした。この環境に配慮するという意識は、高校生たちへも波及効果があった。レクリエーション活動の“宝さがし”の中で使う砂に埋めるもの（数字を書いた札）について、最初は水にも強いプラスチック製のものを使う予定だったが、もし、子どもたちが見つけられなかった場合ずっと砂浜に残ってしまうという発想に変わり、万が一残ってしまったら腐って後に残らない、薄い板切れに急遽変更した。板切れについても主催団体役員に工務店の方が見えたため無料で準備していただき高校生も非常に助けられた。

地元の漁師の方たちも「志摩町の子どもたちのためなら。」と、事前の打ち合わせや準備作業など積極的に協力してもらった。子どもたちの中でもし魚が捕まえられない子どもがいたらかわいそうとの心配から別の魚を準備してくれていたりもした。（結果的には、すべての子どもたちが魚を捕まえられ、後で子どもたちに配ってもらった。）

このようにいろいろな方や団体をコーディネートし実施できた事業であったが、やはり「お互いが顔を合わせて話し合う」ということが重要と感じた。電話で済む話であっても直接合せて話すことで事業以外の話でも会話がはずみ、相手との信頼関係を築くことができた。参加した子どもたちにとっては、従来どおりの自然体験型学習だけでなく、地元の海や自然に親しむことができた地域学習や環境学習、親子が触れ合いながら体験できた地場産業に対する学習など貴重な一日となった。また、高校生ボランティアグループ「ワンアース」もこの

事業を通じ、地域の大人や子どもと接する良い機会となり、自分たちの活動もアピールでき、地域の他の団体からも声をかけられる存在となっている。

今後の課題としては、地域コミュニティの促進を図り、地域の問題点や多種多様なニーズを把握し、各種団体等を連携協力させていくコーディネーターという役割が非常に重要となってくるため、地域のコーディネーターの育成支援に力を入れていきたい。また、これからは高校生ボランティアグループだけでなく中学生のボランティアグループの育成や活動の場の提供といった支援体制を充実させ、市内の他の活動支援センターと連携し、町内だけでなく市内の「子どもの居場所づくり事業」へと展開できるよう取り組んでいきたい。



海岸・砂浜での一斉清掃活動



子どもたちに対し、危険な魚のレクチャーを行う高校生ボランティア



地引き網を引っ張る子どもたち



夢中になって魚を捕まえる子どもたち

執筆者職・氏名：志摩市教育委員会 文化スポーツ課 主事 坂井 陽